



第五小だより 8月号

令和2年8月3日 第5号

<http://5sho.wako-city.ed.jp/>

〒351-0104 和光市南1-5-10 Tel. 048-463-3100 児童数 680名

レッツゴースクール
Let's 5!! School!

学校教育目標
心豊かな子ども
進んで学ぶ子ども
たくましい子ども
地域を愛する子ども

もうすぐ夏休み 心と体にたくさんの栄養を!



本校 H.P.

校長 来嶋 実樹子

平年よりも11日遅い8月1日に関東甲信地方は梅雨が明けて、夏がやってきました。例年ですとプールや林間学校など夏の行事の時期ですが、今年度は休校措置の影響で1学期の終了が8月7日、今週1週間は1学期のまとめの週となります。感染症予防の新しい生活様式にも慣れてきたところで約2週間の夏休みに入ります。子供たちは、不安な気持ちの中で学習や生活に全力で取り組んできました。休み中は、一生懸命にがんばった心と体をしっかりと休ませ、ご家族の時間をたっぷり取って、楽しく過ごしてほしいと思います。

さて、嬉しいご報告があります。本校の5年生の作文が、読売新聞 埼玉版の「ひろば」というコーナーに掲載されました。大阪のおばあちゃんが経営する銭湯での思い出を綴った心温まる作文です。自分の思いを表現する力をしっかりと身につけていくことは、とても大切なことです。校内に掲示したいと思います。これまでに掲載された作文も掲示してありますので、学校にいらしたときに是非ご覧ください。

自分の思いを表現する力を身につける学びとして、国語の時間には作文のほかに俳句や詩をつくる活動があります。私は、新しい学校に赴任するとすぐに調べることがあります。その学校の校歌は、どなたによってつくられたのかということです。校長室には、作曲の土肥 泰（どい ゆたか）先生の手書きの楽譜と、作詞の宮沢 章二（みやざわ しょうじ）先生の手書きの詩が額縁に収められて飾られています。お二人とも埼玉県出身の方で、埼玉県の小・中学校の校歌を多く手がけられています。作詞の宮沢 章二先生は、中学生のために30年間も詩を書き続けられました。

「ころころ」はだれにも見えないけれど 「ころころづかい」は見える

「思い」は見えないけれど 「思いやり」はだれにでも見える

2011年3月11日の東日本大震災のあとに、テレビで流れたこの詩を覚えている方も多いと思います。これは宮沢 章二先生の「行為の意味」の詩のことばなのです。宮沢先生は、「ひとりひとりの子供たちが、ひとりひとりで考えながら自分自身の道を自分で見つける。同時にお互い協力しながら、3年間の中学生生活を悔いのないものにしてほしい。」という思いで中学生に力強い詩を贈り続けたそうです。同じ思いで本校の校歌を作詞されたのでしょうか。3番の「望み ゆたかな 星が照る」は、本校の大切な子供たちのきらきらと輝く素晴らしい伸びゆく力への応援メッセージであると思います。私は本校に赴任してから、まだ体育館で全校児童が歌う校歌を聴いたことがありません。一日も早く感染症が収まり、これまでのように全校児童が響きのある美しい声で歌う校歌を聴くことができる日を楽しみにしています。